

C 1 2 (永宮正治)

- 1) 今期第2回目の C12 Commission Meeting
 - a) 2004年6月30日(水)、Sweden の Goeteborg にて開催。
 - b) INPC2007 を日本で開催することを決定
組織委員長：永宮、開催場所：未定（東京、京都、つくばから選ぶ）、
9月に第1回組織委員会。学術会議に支援を申請したい。
 - c) 来年の会議サポート：PANIC2005 をサポート。
ただし、開催国がアメリカであるため、ビザ問題に関して議論があった。
 - d) 2006年の会議サポート：ブラジルが2つの主要な会議を主宰するのでヒアリング。
 - e) C12 Commission Meeting は、当面アメリカで開催しないことを決定。現在、次回開催地を物色中（ハンガリーまたはタイで開催される模様）。
 - f) 次項の「Ad Hoc Committee on International Cooperation in Nuclear Physics」について、委員長の A. W. Thomas 氏 (Thomas Jefferson Lab) より報告。

- 2) Ad Hoc Committee on International Cooperation in Nuclear Physics
 - a) C 1 2 内部に作った新しい委員会。2004年6月27日（日）、Swedenの Goeteborg にて、INPC2004 に先立って丸1日間開催。
 - b) 議論の内容
 - 米国 NSAC 委員長 (R. F. Casten)、欧州原子核委員会 NUPECC 委員長 (M. N. Harakeh)、日本核物理委員長 (酒井英行)、カナダトライアンフ所長 (A. Shotter)、中国蘭州核物理研究所長 (W.-L. Zhang) による一般的動向の講演に始まり、世界的に今何をなすべきかに関して議論。
 - 原子核物理学の facilities は以下の6つに分類されるであろう。1) Radioactive Ion Beam facilities, 2) Relativistic Heavy Ion Beam facilities, 3) Electron Beam facilities, 4) Kaon factories, 5) Underground laboratories, 6) Other facilities。このうち、第1のカテゴリーのものは、世界に多数存在するが、第2から第5のカテゴリーのものはごく限られた数しかない。両者は国際的な利用方法や cooperation や collaboration のスタイルが異なるので、分けて考え

た方が良い。

- まず、手始めの作業として、世界の facilities の booklet を作り、次回はそれを持ち寄ってさらに議論を深める。
- 第1回会合参加者：
 - Richard F. Gasten – Yale (Chair NSAC)
 - Sam H. Aronson – BNL
 - Alan Shotter (for Jean-Michel Poutissou) – TRIUMF
 - Muhsin N. Harakeh – KVI (Chair NuPECC)
 - Daniel Guerreau – IN2P3
 - Shoji Nagamiya – J-PARC (Chair C12)
 - Wenlong Zhan – Lanzhou
 - Walter F. Henning – (Vice-Chair C12)
 - Alexey A. Ogloblin – Kurchatov
 - Hideyuki Sakai – Tokyo (Chair Japanese Experimental Nuclear Physics Committee)
 - Toro Motobayashi – RIKEN
 - Willem T.H. van Oers – Manitoba (Secretary)
 - Wen-qing Shen – Shanghai
 - Arthur B. McDonald – SNO